

# カルメル 霊性センターニュース



宇治カルメル会修道院

2020年7月

366号



【教会からの言葉】

《地球と人類のための共通の祈り》

(『ラウダート・シ』特別年の祈り：2020年5月24日～2021年5月24日)

慈愛あふれる神よ、  
天と地と、そこにあるすべてのものの創造主よ。  
わたしたちの精神を広げ、  
わたしたちの心に触れてください。  
わたしたちがあなたの贈り物である  
被造物の一部でいられるように。  
この困難の時、  
最も貧しく、最も弱い人たちをはじめとする、  
困窮した人々のそばにいてください。  
世界規模のこのパンデミックの影響に立ち向かう中、  
わたしたちが創造的な連帯を示せるようお助けください。  
共通善の追求に向かって、  
変化を受け入れる勇気をわたしたちにお与えください。  
今まさに、わたしたちは、皆が相互につながり、  
相互に依存していることを感じています。  
地球と貧しい人々の叫びに、  
わたしたちが耳を傾けることができるようにしてください。  
この現在の苦しみが、  
より兄弟愛に満ち、持続可能な世界を築くための  
産みの苦しみでありますように。  
扶助者マリアの愛に満ちた眼差しのもと、  
わたしたちの主キリストによってあなたに祈ります。 アーメン。

## 目次

教会からの巻頭の言葉	1
目次	2
心の泉	3
通信深読お申込みのご案内	26
カルメル会の企画案内	27
東京	28
京都	30
諸所の企画案内	31
郵送お申込みのご案内	38
あとがき	39



# 心の泉



聖母子像 (宇治カルメル会 黙想の家前)



## 第三卷

### 第三十章 神の助けを願い、恵みが再び下ることを信じる

#### 2 信じる者にはすべてが可能

私にとって困難なことがあるだろうか？約束しただけでそれを実行しない人間と私とは同じだろうか？あなたの信仰はどこにいったのか？しっかりと立って、たゆまず続けなさい。寛容な勇者でありなさい、適切な時に、慰めが来るであろう。私を待ち望め。私は来て、あなたをいやすであろう。誘惑はあなたを悩まし、空しい恐怖があなたをおびやかす。未来の出来事を心配して何の役に立つのか。憂いに憂いを重ねるばかりではないか。「一日の苦労は一日で足りる」(マタイ6・34)。未来のことについて一喜一憂するのは、むだで空しいことである。それは起こらないかも知れない。

#### 3 信じなさい

人は想像に惑わされることがよくある。しかし、敵の暗示に容易に引きつけられるのは、心が狭い証拠である。悪霊は、虚実をとりまぜた空しい希望をもたせ、あるいは迷いに追いやる。私たちを罪におとし入れるためには、現在の出来事への執着であれ、未来に起こることへの恐怖であれ、あらゆる手段を用いる。だから、「心を騒がせて恐れてはならない」(ヨハネ14・27)。私を信じなさい、私のあわれみに信頼しなさい。あなたが、私から遠く離れていると思う時、私はいつもよりもあなたの近くにいる。そしてあなたが、すべてがだめだと思う時こそ、より大なる功德を示す時である。物事が、あなたの思惑の反対になった時も、一切を失ったのではない。今の感情だけで判断してはならない。そして抜け出る活路が、まったくないかのように試練に屈服してはならない。

#### 4 試練が必要

私が、ある期間、あなたに試練を送り、あるいは、あなたが乞い願う慰めを与えないにしても、私から見捨てられたと思うな。天の国に至るためには、この道を通らねばならないからである。あなたと、ほかのしもべにとっては、万事が思いのままに順調にゆくよりも、不幸で鍛えられるほうが、確かに有益である。私は、人のひそかな考えさえも見通している。あなたの永遠の救いのためには、ときどき霊的な甘美さを味わわないほうがよいと知っている。それは、何かに成功してうぬぼれず、持たないものを持っているかのように自負しないためである。私の与えたものを、私は適切な時にあなたから奪い取ることができる。

カルメル山の聖母



ルルドの聖母

なにか胸騒ぎがしたベルナデッタがルルドの洞窟へ向かうと、聖母はそこで待っておられました。でも、何も言われません。最後となったルルドのご出現は「沈黙の聖母」でした……その日はちょうど7月16日、カルメル山の聖母の祝日でした。



- ✦ 一見したところ、あるいは本当に希望がない時、それはマリアの「時」です。マリアは全き母であり、母以外の何もでもないからです。 \* 福者マリー=ユージェーンヌ神父
- ✦ 私たちは聖母の大きな母の愛につつまれていると感じる必要があります。聖母は私たちが必要とするものに区別をつけられませんから、魂とからだのすべてを委ねましょう。霊的母性はすべてを包み込みます。私たちの置かれた状況がどのようなものであれ、すべてを聖母の愛に委ねましょう。 \* 福者マリー=ユージェーンヌ神父

- ✦ おとめマリアを母だと感じないキリスト者は、孤児なのです。 \* 教皇フランシスコ
- ✦ 主は常に私たちにゆるし、ともに歩んでくださいます。



問題は、私たちがそれを受け入れられるかどうか、です。 \* 教皇フランシスコ

7月は、16日～カルメル山の聖母、21日～聖エリア、22日～聖マグダレナ、26日～マリアの両親聖アンナと聖ヨアキムの祝日を祝います。

彼らの執り成しを願って、コロナウイルスにも、“暑さにも負けず”祈りのうちに神との親しさを深め、多くの人々の苦しみをともに生きる日々でありますように。

伊従 信子(いより のぶこ)  
ノートルダム・ド・ヴィ

\* 「聖霊とともに」:小冊子(上野毛黙想の家、またはN/DV 石神井へお問い合わせください)



## 創造主への賛美 (33)

くのり  
九里 彰

「徳」は、人間そのもの、その人の存在そのものと関わっていると考えてくると、日本人の恰好ばかり気にする文化は、イエスが糾弾したパリサイ派の偽善にきわめて近くなってくる。彼らは、神の目ではなく、人の目を気にし、絶えず人の目に完璧な者であろうとするのである。

見てもらおうとして、人の前で善行をしないように注意しなさい。…だから、あなたは施しをするときには、偽善者たちが人からほめられようと会堂や街角でするように、自分の前でラッパを吹き鳴らしてはならない。…祈るときにも、あなたがたは偽善者のようであってはならない。偽善者たちは、人に見てもらおうと、会堂や大通りに立って祈りたがる。…断食するときには、あなたがたは偽善者のように沈んだ顔つきをしてはならない。偽善者は、断食しているのを人に見てもらおうと、顔を見苦しくする。

(マタイ 6 章 1-18)

要するに、人からの評価や賞讃を求めているわけで、神の現存の意識はすっぱり抜け落ちていたのである。神より自分のことが中心となっている。上述の、施し（布施）、祈り（祈祷）、断食（苦行）などは、洋の東西を問わない宗教的行である。ところが、私たちは目に見えることしか見ない・見えないので、たとえば、だれかが長時間、教会堂にいれば、すぐに熱心に祈っていると、勘違いをする。祈りが本物であれば、神と交わっているわけであるから、その人自身が聖化（東方神学では神化）されてくるはずである。アビラのテレジアが繰り返し言っているように、祈りが本物であるか否かはその人の行ないを見れば分かるということである。言い換えれば、顔つきや態度や言葉などにも現われているのである。その人自身が聖霊によって根本的に変えられ、徳、とりわけ愛徳がそなわってくるはずだからである。そうでなければ、単に人の目を意識した、自己満足的な行為にすぎない。

律法学者たちとファリサイ派の人々、あなたたち偽善者は不幸だ。杯や皿の外側はきれいにするが、内側は強欲と放縦で満ちているからだ。ものが見えないファリサイ派の人々、まず杯の内側をきれいにせよ。そうすれば、外側もきれいになる。（マタイ 23・25-26）

（続く）



## 十字架の聖ヨハネのこぼれ話（148）

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

### 「十字架のヨハネはシンボル？」（2）

十字架のヨハネは、詩の偉大な創作者です。『霊の賛歌』の40連、『愛の生ける炎』の4連、『ある暗い夜に、流れ出る泉…』の8連という具合に。その彼はまた、ベアスの修道院の菜園で働く労働者でもありました（BMC10, 325：聖霊のマグダレーナの供述）。1591年の夏にはラ・ペニユエラで農民の仕事を、グラナダやセゴビアでは建設の仕事をしました。また小さなひよこ豆を収穫し、殻むきの仕事をする中に見出される彼の姿は、彼の描く、「期待される収穫への強欲から犁につながれた牛を痛めつけ、苦しめる」（IS7, 1）ような農民とか作男ではありません。十字架のヨハネは、別の収穫を期待し、別の渴望を持っていました。すなわち、観想によって働いた土地から、神のパンを期待していたのです。

シンボルとしての十字架のヨハネは、パウロ六世が、「力と美しさと詩情で満ちた」変わる事のない春の中で、自然によって刷新される人間の「自覚し祈る声」と呼んだものでしょう。

宇宙的な春の中で、十字架のヨハネは「朝の快いさわやかさ」（CB30, 4）を強調し、ナイチンゲールが「もはや寒さや雨や冬の不純な天候が過ぎ去ったことを（歌い）、耳や霊に慰めを与える調べをかなでるのに」（CB39, 8）驚き、「霊の自由さや広やかさや喜びの内に新しい春」を感じるのです。

最後の問い：十字架のヨハネの詩的キリスト教的感性によって生きられている自然に、人間はどのように対応すべきなのか。

この問いは、すでに以前の問いの中で、実際的には答えられています。そこでは、私たちは、「十字架のヨハネはシンボルか」という文章にまとめました。

しかし私には、補足の次元として、次のようにきわめて単純に答えるのが良いと思われま。すなわち、人々は、自然に対し、存在しておられる神の被造物として、それにふさわしい対応をするべきであり、自然を造られた方の指の跡を、自然の中に探求すべきだということです。

(P. 九里訳)



## 年間 第14主日

(マタイ11:25-30)

イエスは、人々に語られただけでなく多くの奇跡を行われ、ことばと行いによって、神から来られた方であることを証しされ、神の国について、神の救いについて宣べ伝え、人々が神に立ち返る様に、悔い改める様に宣教されておりましたが、数多くの奇跡の行われた町々が悔い改めず、叱り始められた時にお話しになったのが今日の福音です。

イエスが話された人々に宣べ伝えられた神の国、神の救いは、ユダヤの社会にあって、知恵ある者や賢い者、イエスを受け入れようとしないうダヤ人、ファイリサイ派の人々には隠されて、理解されないまま、拒絶されるままになっていました。これに対して、幼子のような者、すなわち弱い人々、誰かに頼って生きている人々、その様な人々は、神に信頼しながら歩んでいる人々…と言えるでしょうね。それらの人々に父なる神は、ご自分の神の国、救いについてイエスを通して示されたことをイエスは語られます。

父なる神について知っているのはどんな方でしょう。神の国について知っているのは、救いについて知っているのはどんな方でしょう。それは何よりもその父なる神の独り子、人となられた神のみことばイエス・キリストですね。イエスご自身、みことばの中で、父のほかに子を知る者はなくと仰っておられます。そしてさらに、子と、子が示そうと思う者のほかには、父を知る者はいませんとも言われました。イエスが示そうと思う者、それは幼子のような者なのでしょうね。

さて私たちは一体どの様な者なのでしょう。私は一体どの様な者なのでしょう。もしかして全てのことを知っており知恵がある、賢い者と思っているかも知れません。もしそうだとすると、自分の力で何かをしようとして、自分の力で救いに達しようとし、福音を受け入れること、信じることができなくなってしまっているかも知れません。

私たちはイエスが仰るように、幼子のようなものでありたいと思います。神に全てをより頼み歩んでゆくことができます様に。その様な中でイエスに学んで歩んで行くとき、イエスから安らぎを得ることができるのですね。この言葉への信頼、イエスへの信頼のうちに歩みましょう。イエスからいただく軛、イエスが与える掟は、負いやすいもの…。それを担い歩んでゆく中で、イエスが私たちに父を示して下さり、私たちが父なる神を知ることができます様に。

(Fr. 古川利雅)

## 年間 第15主日 (A)

(マタイ 13 : 1 - 23)

本日の福音では、話を聞きに湖の岸辺に集まってきた人々にイエス様は「種を蒔く人」の譬え話をします。農夫が種を蒔きに出かけて行きます。種は様々な土地に落ちます。神の言葉を聞いてそれを理解する人には、豊かで実り多い収穫があります。

このイエスの譬え話は、「天の王国」に焦点を当てています。イエス様ご自身が種を蒔く人です。イエスは人間となった神のみ言葉です。種を準備し、話を聞いた人の心の中に種を蒔き、30倍、60倍、100倍もの収穫をもたらします。普通の種蒔きであれば、収穫はその土地が肥沃であるかどうかによりますが、本日の福音では種が蒔かれた土地は人間の心です。神の言葉が実を結ぶためには人間の心は、肥沃で豊かでなければなりません。み言葉が土地を肥沃にするのではなく、種がどんな土地に落ちたか、土地が神のみ言葉をどのように受け入れるかによっています。私たちの御父である神は、種蒔きのために神のみ言葉であるイエスを与えてくださいました。イエス様の言葉を喜んで聞く人は永遠の命への実を結びます。

神のみ言葉が述べられると、種は信者の心の中に蒔かれ、次には神への渇きで満たされます。神の言葉がふさわしい土地に出会ったとき、神の王国があります。

種を蒔いた土地の状態は、必ずしも四つの別々の畑とは限らないということを中心にとめましょう。この四つの状態は一つの畑で見られるかもしれません。神の言葉を受け取る私たち一人ひとりにあてはまります。私たちの土地の状態そのものが大変重要です。私の心は神の言葉を受け入れるのにいつでも開かれているのでしょうか？ 私たちの心はあまりに固くなで、神の言葉を受け入れないときもあります。この世の楽しみや娯楽に捉われてしまうときもあります。神の言葉が与えられても、自分自身の問題や生活の試練に押し潰されて、神の言葉は妨げられ取り去られてしまいます。私たちの心の状態がちょうどよいときには神の言葉は私たちの中に深く根づき、なん百倍もの恵みをもたらします。

(Sr. Paulina)

## 年間 第16主日

(マタイ13:24-43)

「毒麦」とは、聖書と典礼の解説によれば「小麦に似た雑草で、人間が食べると吐き気やめまいをもよおす」という植物です。もし麦畑にこれが生えてきたら、非常に厄介なことになるのでしょうか。福音書で、「抜き取ってしまいませんか」と言う僕に対し、主人は「いや、毒麦を集めるとき、麦まで一緒に抜くかもしれない。刈り入れまで、両方とも育つままにしておきなさい」と命じます。

このたとえは、善悪が入り乱れた世界に住む私たちにとっても大切な示唆を与えてくれていると思います。私たちもいろいろな物事に悩まされます。人間関係、自分自身のことなど。悩みを何とか解消したいあまり、それを根元からごっそりと切り取ってしまいたくなるときがあります。しかし、本当にそれでいいのでしょうか。もしかしたら、それは必要なものかもしれません。毒麦のようでいて、じつは本当の麦かもしれません。悪いと見えるものであっても実は良いもので、その人の成長の肥やしになっているものも実は多くあると思います。わからない場合、安易に刈り取ってしまうのはやめ、刈り入れの時までじっくりと付き合っていく心のゆとりも必要であることを、この福音は教えてくれていると思います。

この世はすべて神様によって造られました。神様によって造られたもので悪いものは何一つありません。悪いものは神以外から来ています。神に反抗した私たちが、悪を企てるのです。高慢、嫉妬、恐れがその根本にあります。

私たちにできることは、自分自身の中に生じた悪を糾明し、痛悔し、それをイエス様に告げることです。そのとき、イエス様が十字架上で悪を裁き、人を救います。人は神様から造られた一番大切なものだから、イエス様はその人に自由と平安と神の国に向かって歩む力を与えてくださいます。こうしながら、争いや分裂を退け、平和と共存、対話の雰囲気を育み、私たちは少しずつ、刈り入れの時に向かって歩いていくべきなのだと思います。

刈り入れの時は、神様の時であり、収穫者も神様です。神様だけが悪を裁くことができる方です。私たちは謙虚に「わたしたちを誘惑に陥らせず、悪からお救いください」と祈りながら、平和の種をまき続けていきましょう。

(今泉健 神父)



## A年 年間第17主日

(マタイ13:44-52)

本日の福音は、「天の国」のたとえ話ですが、洗礼を受けたすべての者に対し、神と神のみ国のために個人的に応答することを求めています。新約聖書では、天の国に関する記述が多く登場し、イエスも天の国について何度も語り、その神秘を明らかにされています。ではそもそも「天の国」とは何でしょうか？これは、一人ひとりのこころを神が支配することを指します。

イエスは、3つの短いたとえ話を話されました。最初のたとえ話は、「宝」についてです。実はその主人公は、宝探しをしていたわけではありませんでした。作業途中で土を掘っていた時に見つけたのかもしれませんが。つまり偶然、宝を見つけたのです。2つ目は、ある人が熱心に探した結果、「高価な真珠」を見つけたというたとえ話です。その人は、高価な真珠が必ずどこかにあるはずだと知っており、見つけるための努力を惜しみません。そしてこの真珠を見つけた途端、ためらわずに、真珠を手に入れるために必要な手立を講じるのです。

イエスは、網に関する3つ目のたとえ話を、教会についての理解を深め、教会がどのように存在しているかを示すために使われました。湖に投げ降ろされた網は、最後の審判をテーマにしています。イエスは、教会を、区別なくあらゆる種類の魚を集める網に例えます。魚を選別するのは漁師の役目です。1つ目と2つ目のたとえ話は、キリストのすべての弟子たちの全面的に献身する姿を描いている中、3つ目のたとえ話では、永遠の命を中心に据えることを意識して生活する生き方が示されています。私たちは一人残らず、自分自身の人生に責任があり、最後の審判を受けなければならないのです。

ご存じのとおり、教会は、聖人と罪人の教会であり、貧しい人と裕福な人の教会であり、善人と悪人の教会です。イエスは、たとえ話に耳を傾けてこれを実践する絶好の機会を私たちに与えておられます。み言葉を聞き、それを他者と分かち合う人は皆、「天の国」に入ります。私たちは例外なく、純真な人、貧しい人、無知な人、目の見えない人と病人たちが、私たちの唯一無二の宝であるイエスという「宝」と「高価な真珠」を見つめることができるように、彼らを導く役割を持っているのです。

*(Sr. Paulina)*

# いのちの言葉 7月

だれでも、わたしの天の父の御心を行う人が、  
わたしの兄弟、姉妹、また母である。

(マタイ 12・50)

マタイ福音書のなかには、イエスの生涯の中で、小さな一つのエピソードが記されています。それは、イエスと弟子たちがカファルナウムにいた時の出来事で、イエスは、御父の愛をすべての人に伝えようとしていました。そこへ、イエスの母とその親戚がやって来たのです。彼らは、長い旅路のすえやっと探し当てたイエスと会ってすぐに話をしたかったことでしょう。しかし、彼らは、イエスがいる所に直行せず、人をやってイエスにこう尋ねました。「御覧なさい。母上とご兄弟たちが、お話ししたいと外に立っておられます」と。

イスラエルの人々にとっても家族の絆は大切でした。しかし当時、イスラエルの民それ自体が神の「子供」であり、神の約束を受け継ぐ者と考えられていました。それでイスラエルの民に属する者は皆ひとしく「兄弟たち」とみなされてきました。

しかし、イエスは、思いもよらぬことをおっしゃいます。ご自分の前にいる弟子たちにゆっくりと手を差し伸べ、彼らを指し示しながら、次のように言われます。

だれでも、わたしの天の父の御心を行う人が、わたしの兄弟、姉妹、また母である。

イエスは、唯一の御父である神の御心を知り、それを果たそうとする人は誰でもご自分の家族であるとおっしゃいます。

大人、子供、男性、女性、健康な人、病気の人、様々な文化や異なる社会的地位にある人、それらすべての人の内に、愛である神の似姿があるからです。そして、神にとってその一人ひとは、唯一かけがえのない存在であり、神と親しい個人的な交わりに呼ばれている存在なのです。

実際、神を愛し、兄弟を愛するという神の御心を誰でも実行できます。イエスは、私たちが愛するなら、その人はご自分の家族、兄弟・姉妹だと言ってください。私たちは、自分の過去や恐れ、狭い自分の枠からも解放される幸運を手にすることができるのです。自分の限界や弱さでさえも、自己実現に向かって跳躍するために役立つ「踏み台」となり、すべてに意味を見出すことができるでしょう。

だれでも、わたしの天の父の御心を行う人が、わたしの兄弟、姉妹、また母である。

マリア様は、イエスの誕生から十字架での死、さらに教会の誕生に至るまで、いつもご自身を神の御心に委ねておられました。私たち一人一人もまた、福音を生きることによって、自らのうちにイエスを誕生させ、お互いの愛によって、共同体の中にイエスを生み出すマリア様のような存在となれるでしょう。

ある時、キアラ・ルービックは、み言葉を生きようとする人々に、「一つの家族であってください」と言いながら次のように語りました。「皆さんの間に、精神面やモラルの面で、苦しんでいる人がいますか。それならば母親のように、母親以上に、彼らを理解し、言葉や模範を通して、彼らを照らしてください。家庭の温かさで、彼らを包んでください。

皆さんの間に、健康面で苦しむ人がいますか。その人は特別愛されるべき人です。『共に生きる兄弟たちと家族である心』、これを一番大切にしてください。その他のことはその後に来るものです。皆さんが、イエスの理想をもたらすためにできる最も素晴らしいことは、慎重に、強い決心をもって、家族の精神を生み出すことです。家族の精神は、謙遜であり、他の人の善を願い、傲慢になりません。それは、真の完全な愛です」と。

だれでも、わたしの天の父の御心を行う人が、わたしの兄弟、姉妹、また母である。

御父は、私たちにも、日々の生活を通して人類家族を築くために何ができるか分からせて下さるでしょう。

シリアのホームス地域では、ギリシャ正教会の建物の中で、150人余りの子供たちが放課後集まって学んでいます。そのほとんどがイスラム教徒です。

サンドラさんは語ります。「私たちは教師とその分野の専門家からなるチームです。何よりも子供たち一人ひとりが、ここで家庭的な雰囲気を感じながら、対話の精神と価値観を身につけてほしいと願っています。多くの子どもたちは、戦禍のなかで味わったトラウマや苦しみを身に負い、何に対しても無気力な子もいれば、攻撃的な子もいます。私たちは、子供たちが自分に自信が持てるように、また、他の人への信頼を取り戻せるようにと願いながら関わっています。戦争で多くの家族が引き裂かれるなか、ここには、希望をもって新たな一歩を踏み出そうとしている子供たちの姿が見られます。」

だれでも、わたしの天の父の御心を行う人が、わたしの兄弟、姉妹、また母である。

レティツィア・マグリ

連絡先: フォコラーレ東京 03-3330-5619/03-5370-6424 長崎 095-849-3812

E-mail: [tokyofocfem@gmail.com](mailto:tokyofocfem@gmail.com)

ホームページ: <https://www.focolare.org/japan/>

新型コロナウイルスに於ける緊急事態宣言が解除となって、前方への明けと  
言っている安堵感を、私たちは一先ずは持つことができました。

学校も店舗も種々営業施設も門が開かれたようです。 とは言えウイルスの  
感染力は相当なもので、第2波を早くも生じている地域もあって予断を許しま  
せん。 テレビの画面に映る情景は、普通に考えれば何という異常なことか  
と驚き見つめるものばかりなのですが、私たちはもはやそれを常態として慣れ  
てきているのでしょうか。 とにかく全員が如何なる場面でもマスクをつけて  
います。 普通だったらこれは一体何事かと、SF物語の緊迫の一場面なのか  
と固唾をのんで目を見張るところです。 それからありとあらゆるところの  
消毒をする、人の顔と顔を仕切るパーティションを設置する、間隔をあけるよ  
うにと床の上に足形の図を書く。 大勢が集い声を上げることを禁じる。 会  
食もだめ。 握手もだめ。 「三密」という合言葉は今では誰もが理解してい  
る。

遠い果てない昔、アフリカかどこかのミトコンドリアイブとかいうあたりか  
ら、私たち人類は群れて生きることをずっと模索しつつ続けてきたので、今に  
なって突然離れろ触るな集まるなどと言われても戸惑うばかりなのです。 それ  
にその前には神さまが人がひとりであるのは良くないと言われていました。 イ  
エズスも群れから離れるひとつを格別のお心をもって戻されます。 私たち  
は仲良くするにはどうしても近くに近くにとくつつきたいのです。 指切り  
げんまんも、かごめかごめも、耳にささやくひそひその内緒話もできないのは  
困るのです。 「濃厚接触」はみんなきつと好きだと思うのです。

今、特に困惑の極みにあるのが劇場の類ではないでしょうか。 オーケスト  
ラ等のコンサート、演劇等の舞台芸術、また映画ドラマの制作も、人と人との  
間隔が2メートルで、しかもマスク付きではもう何もかもすべてがお手上げで  
はありませんか。 そしてあまりにも痛ましいのは、新型コロナウイルス  
で亡くなった人に、たとえ家族であっても会うことも触れることも禁じられて  
いることです。 火葬も立ち会えずお葬式さえもできずのお別れは何という悲  
しさでしょうか。

私たちは手を握り合い、肩を抱き合い、しっかりと抱擁し合って生きてきま  
した。 考えるよりは肌で分かり、触れて撫でて相手を知ってきたのです。 す  
ぐ傍に人がいることでさまざまなことを学んできたのです。 転んだ私は、と  
っさに差し出される手に抱き起され立ち上がってきたのです。



東京教区、教会からの通達を読みました。

お聖堂にみんなで集まることは現在は不可能なので、緊急事態宣言解除の後もこれまでのように公開のミサは中止。特に高齢者、基礎疾患等の持病のある方はどうぞ自宅でお祈りくださるようご理解くださいとありました。

このような文言を信徒へ書き送らねばならない司祭方のお気持ちのほどを察するとき、何とも言いようのない遣る方ない思いが胸を塞ぎます。

もう長いこと教会へは行っていないのですが、実はおかしな事が生じています。例えば家で天使祝詞を唱えるとき、いつも皆さんと一緒に教会で祈る「恵みあふれる聖マリア」がスムーズにゆかず、ついずっと昔に覚えた「めでたし聖寵満ちみてるマリア」になってしまいます。また教会からのお知らせにあった教区の動画配信のミサ聖祭は、心と体をその気にさせることはなかなか難しい感じで、これは時間、回数を要するかもしれません。

共であるということが深く響き合う、あの天も地もひとつとなる聖堂の空間が、どうしても必須なものでした。いつものあのお聖堂で、主はみなさんと共に、また司祭と共にのあのミサが、いかに私の心と身体になじみ込み込み、全てがほんとうにひとつとなっていたことを、今、涙ぐみながらあらためて深く深く思い知るのです。

万緑というのでしょうか、重なり合う樹木の緑が今部屋の窓一面に広がり、目を心を洗うかのようです。葉の一枚一枚に太陽の光が宿り、それは白いカーテンどころか私の内奥までが緑色に染まるようで、しばしそのただなかへ浸り、見えない何ものかを享受しようと心身は自ずと開かれます。また、たくさんの小鳥たちがやって来て、さえざり合う思い思いのその声は深く届いて、世界に満ちるいのちの輝きが、たとえどのような時であろうともいつも今ここにあって、それは希望なのだと思える思いがします。

私たち一人ひとりが大事なひとりであることは、みんなと一緒にの内にあってこそ成されることなので、私たちは智恵を集めて群れ集って仲良く生きることなのだ、今、光にあふれる空に目を挙げます。

新型コロナウイルスの終息を切に願うばかりです。

群れ集う私たちに主の平和が満ちますように――

主イエズス来てください

(上野毛教会信徒)

# 跣足カルメル修道会HP (International)

跣足カルメル修道会ローマ本部のホームページ <http://www.carmelitaniscalzi.com> の記事を紹介します。

<< **Communications** (時事通信) >>

2020年5月25日

傾聴し、同伴する奉仕



**Teresianum**

Publicado por Carmelitani Scalzi [?] · 4 de mayo a las 11:33 · 🌐

Al Teresianum non ci siamo fermati! 🙏 Lezioni online 🙏 grazie ai nostri studenti e professori! #andratuttobene 🇮🇹🇺🇸



COVID-19 (新型コロナウイルス) によるパンデミック (世界的流行病感染) の危機は、五大陸の数百万人の人々に自宅に留まる生活を余儀なくさせ、跣足カルメル修道会の修道士や修道女たちの日々の人々への奉仕に影響を与えています。男子及び女子修道院では公開ミサができなくなり、訪問者への対応や人々への司牧活動もできなくなっています。その様な状態でも私たちの多くの兄弟姉妹たちは、この痛みを伴う困難なときにあつてキリスト者や苦しむ人々の声に耳を傾け同伴する活動を一丸となつて続けています。

亡くなった人とその家族、病者、医療従事者、行政関係者、また何らかの状況によりパンデミックにかかってしまった全ての人々、そして今、社会福祉の最前線に立って働いている人々も皆、私たちの祈りの中心にあります。

さらに多くの男子と女子修道院から発信されるメディア、特にインターネットとソーシャルネットワークを駆使して、ミサや祈りの集いのライブ中継が提供されています。このようにフェイスブックとYouTubeの双方が、少なくとも、バーチャルでの聖体祭儀に多くの国々の言語、イタリア語、スペイン語、英語、フランス語、マラヤーラム語（インド南部ケララ州の言葉）で放映され、多くの人々が見ることができるようになっています。

そして多くの国々のカルメル修道会共同体は、視聴覚ツールを使い、例えばWhatsApp（ウォツアップ：リアルタイムでメッセージの交換ができるスマートフォン向けインスタントメッセージングアプリ）で、黙想の招き、聖人伝の読書などを提供して、自宅待機中の人たちを励ましています。

スペイン、アビラのCITeS（国際聖テレジア・十字架の聖ヨハネ神秘神学院）では、この時期にいくつかの研修コースを企画し、また日々の福音書を黙想するビデオを配信しています。またCITeSの聖テレジア神学部では、授業形態のビデオ講義やEメールで学生との個人的フォローアップを継続して行っています。

跣足カルメル修道会総長館では、ソーシャルネットワークで、多くの把握しているニュースを提供し、この時期に出されるザベリオ・カニストゥラ総長からの種々のメッセージを発信しています。総長書簡“艱難の時の望み”は私たちカルメル修道会の内外に特別な反響を与えました。

これらすべての司牧的活動は、貧しい人々に必要な物を分け与え、マスクや医療従事者が感染しないための作業衣服を縫製するなど、慈善のための労作と一体になって行われています。私たちは、ある女子カルメル修道院が、近くに住む貧しい家族に食料や生活必需品を分け与えていた際に、ひどい欠乏状態に陥る体験をしたことを聞いています。今彼らの状態は正常に戻り、自分たちのことを公表しないよう望んでいます。

（訳：小宮山延子）

## 糸巻き棒からペンへ(55)

現代人のためのイエスの聖テレジアの教え

エドゥアルド・サンス OCD

聖テレジアも、一時期、この厳しさに魅せられていました。しかしすぐに、これは、主が彼女や修道女に望まれている道ではないことを悟りました。次のように彼女自身が告白しています。「ある時、ドーニャ・カタリーナ・デ・カルドーナがした偉大な苦行を考え、また主から与えられた苦行への望みに従って、どのようにしてもっと苦行ができるか、たとえ聴罪司祭に従わないことになると、今後はこの点については彼らに従わない方がよいのではないかと考えていた時、主は私に言われました。「娘よ、おまえが歩むべき確実な良い道は、そうではない。彼女のするすべての苦行が見えるのか。私はお前の従順をもっと評価する」(CC20)。

ドーニャ・カタリーナの企てが、多くの階層において聖テレジアのそれよりずっと高く評価されていたことを理解するには、最初の跣足カルメル会士によって生み出された文書を見るだけで十分でしょう。たとえば、聖マリアのフランシスコは、「カルメル年代記」の中でカタリーナの生涯と奇跡を語るために60頁以上も費やしています。最初の従順に関するカルメル山の聖母の跣足会士の改革(第四巻、1〜20章)や、聖テレジアの伝記作家であるイエスのトマスや憐れみのヨハネも、聖テレジアの伝記を書く前に、カタリーナの伝記的足跡を沢山書きました。

聖テレジアの企てがもたらす新しさの本質——それは、同時代の多くの人々にさえ理解されなかったのですが——について、私たちの理解を助けてくれる一人の証人がいます。有名なカタリーナ・デ・カルドーナの列福調査を視野に入れた聖ガブリエルのアンヘルによる記念碑的著作です。彼女について語りながら、彼はこう書いています。「私たちの隠棲修道女の聖性に関する最大の奇跡と証しは、母テレジアのおだやかさではなく、むしろ男子跣足カルメル会士の精神と苦行の厳しさに従ったということにある」。そして、カタリーナ自身が「母イエスのテレジアは幸いなる修道女の修道院を創立しましたが、神は私をそうではなく、修道士の修道院を創立するために呼ばれました。私が隠遁生活によって神のためにした奉仕を、修道士たちが続けるよう、私は神に願いました」と言ったと付け加えています。

ある時には、パストラナの男子跣足カルメル会士たち(ドーニャ・カタリーナの大いなる友であり崇拜者であった)の側から「挑戦状」が届きました。彼らは聖女に、「神的なものへのトーナメント」を提案してきたのです。

(P. 九里訳)





2020年 夏号 No.377

\*\*\*《現代に生きる祈りの伝統》\*\*\*\*\*  
 祈りの生活 ラファエル塩谷  
 \*\*\*\*\*

信仰生活(再)入門(10) 聖書に学ぶ祈りの道(2)  
 —詩編：嘆きと信頼の詩 片山はるひ

道の靈性(2)—道の重さと軽さ 田畑邦治

キリストに伴われて季節を巡る(10) 伊従信子

病者の塗油の秘跡 ポール・フェルナンデス

カルメル会の会則に見る  
 アシェーシスと修道生活(10) 九里 彰

靈的研究会講義録(8)—聖書・祈り・愛について  
 奥村一郎

2020年 特集号

「すべてのいのちを守るため」  
 —フランシスコ教皇のメッセージ—

神の愛といのちの福音を次世代に 松田浩一  
 教皇フランシスコの説く「平和への道」 九里 彰  
 司牧者のかがみ 教皇フランシスコ 今泉 健  
 教皇フランシスコならではの視点と光 大瀬高司  
 —寄留者の尊厳

ご案内 1冊 520円 A5サイズ 50~70ページ

サンパウロ・ドンボスコ書店・イグナチオ教会案内所・上野毛教会信徒ホール本コーナー・  
 各カルメル会黙想の家 他にてお求め下さい

- 送付ご希望の方は、700円【520円 (+送料 180円)】程度の献金を下記へお振込み下さい
- 年間での継続送付ご希望の方は、年会費(年5冊：春夏秋冬+特集号 計 3,500円)を  
 下記へお振込み下さい

郵便振替:00190-4-195457 跣足カルメル修道会

- お問い合わせは、事務担当：内田幸子宛に上野毛修道院へ手紙かファックス、又はe-mailで。  
 〒159-0093 世田谷区上野毛 2-14-25 Fax: 03-3704-1764

E-mail: carmelshi.jimu@gmail.com

## 新書紹介

十字架の聖ヨハネ理解のための  
待望の書 翻訳刊行



## 『十字架の聖ヨハネの霊性』

フェデリコ・ルイス師の講話  
〈十字架の聖ヨハネ・霊性神学研究の第一人者〉

著者：フェデリコ・ルイス

訳者：九里 彰

判型：B6 判並製

ページ数：184 ページ

価格：本体 1,600 円+税

ISBN：978-4-8056-3918-4 C0016

発行：サンパウロ

スペインで「詩人の守護聖人」と称される十字架の聖ヨハネは、日常生活の中で神との親密な関係を生き、キリストと、隣人との愛の交わりを生きた聖人でした。自身の神体験を詩で表し、自らそれを解説し、著作として残しています。彼は決して近寄り難い人物だったわけではなく、バランスの取れた温厚な人でした。

インターネットや AI が発達する、「霊性の時代」といわれる現代において、神との出会いを生きる真の意味を、十字架の聖ヨハネの思想、生涯の中に探ることができます。

十字架聖ヨハネを正しく理解することは、霊性を正しく理解することの基礎となっていきます。

フェデリコ・ルイス・サルバドル

1933 年スペイン、バレンシア生まれ。1950 年跣足カルメル修道会入会。

1957 年司祭叙階。ローマ・カルメル会国際神学大学テレジア・ヌム教授。

2018 年 10 月 27 日マドリードにて帰天。享年 85 歳

九里 彰

カイルメル修道会司祭。1981 年上智大学大学院哲学専攻、博士後期課程修了。1990 年カルメル会入会。1997 年司祭叙階。1999~2002 年スペイン留学。カルメル修道会 元日本地区総長代理。現在、金沢広坂修道院院長



# 書籍案内

## 生きる意味

### ●キリスト教への問いかけ

清水正之・鶴岡賀雄・桑原直己・釘宮明美 編

A5判・312頁・2500円+税

ISBN978-4-87232-100-5

東日本大震災と原発事故によって喚起された「生きる意味」という愚直な問い。その答えを示すことこそが、「宗教」である。グローバル化に伴う経済格差、労働のあり方、宗教の役割など——危機にさらされている人間の救済の道を探る。

#### ———目次———

- 序 「生きる意味への問いかけ」がなされる場をめぐって／鶴岡賀雄
- 1 東日本大震災と宗教／中下大樹
- 2 宗教と社会と自治体の災害時協力／稲場圭信
- 3 東日本大震災に思うこと／佐藤純一
- 4 脱原発の倫理／久保文彦
- 5 何のために働くのか／神谷秀樹
- 6 グローバル化する経済の中の人間／勝俣 誠
- 7 私たちの社会に希望はあるか？／宮台真司
- 8 関係の倫理学／清水正之
- 9 宗教が医療・医学に果たした役割、果たすことが期待されている役割／加藤 敏
- 10 V・フランクルのロゴセラピー／桑原直己
- 11 「神の子となる」——カルメルの霊性と共に／★九里 彰★
- 12 「おかげさま」の言語化と生き方による霊性化／中野東禅
- 13 エディット・シュタイン『十字架の学問』への道とその霊性／釘宮明美

オリエンス宗教研究所 TEL:03-3322-7601 FAX:03-3325-5322

ご注文は全国のキリスト教書店、オリエンスHP、FAX、ネット書店などへ



# 2020年のご案内

年間テーマ 手をとりあい、白ら歩み出す



大瀬高司 師

好評の2019年の連載「カトリックの信仰を生きた愛国者・ステファノ山本信次郎」に引き続き大瀬高司神父の新連載が始まります。

●近代日本の歩みとカトリック教会  
——山本信次郎研究ノートより  
大瀬高司（カルメル修道会司祭）

山本信次郎研究で得られた成果から、近代日本のカトリック教会での出来事や人物を取り上げ、これまであまり知られていないエピソードを中心に紹介します。

## その他の新連載

- アンジェラスの鐘／加藤美紀（教育学者）
- 知恵ある者たちのアフォリズム／加藤久美子（聖書学者）
- かたわらに、今、たたずんで／大野高志（日本基督教団牧師）
- 聖歌と賛歌——民衆霊性と多様性から  
杉本ゆり（中世教会音楽研究者）
- 新米神父の開拓奮闘記／大西勇史（広島教区司祭）
- いのちの交わりの場——エコロジカルな暮らしのために  
吉川まみ（環境学者）

## 継続連載

- 典礼暦と季節の味わい（応用編）  
柳谷晃子（食文化研究所主宰）



## 月刊『福音宣教』お申し込み方法

◇郵便局に備えつけの振替用紙にて年間定期購読料を下記口座までお振り込みください。ご入金確認後、発送いたします。

- 口座番号：00170-2-84745
- 加入者名：オリエンズ宗教研究所
- ご購読料：7500円（税・送料込）
- 備考欄：「福音宣教～月号から」とご希望の開始月をご明記ください。ご指定がなければ、最新号からお送りいたします。

年間定期購読料（年11回、8・9月合併号）7500円（税・送料込）一部定価600円＋税

オリエンズ宗教研究所 〒156-0043 東京都世田谷区松原 2-28-5  
Tel 03-3322-7601 Fax 03-3325-5322 <https://www.oriens.or.jp/>



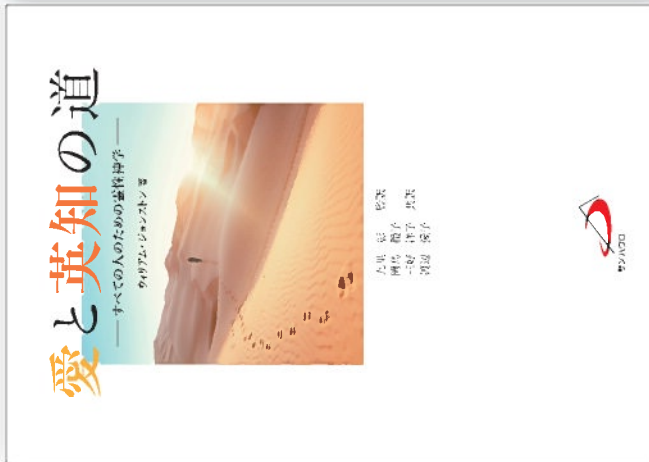
# 愛と英知の道

—すべての人のための霊性神学—

ウィリアム・ジョンストン 著

九里 彰 監訳

岡島 禮子 三好 洋子 渡辺 愛子 共訳



西洋と東洋の神秘主義の伝統に通暁した著者が、21世紀というグローバル化し、「地球家族」となった現代世界のすべてのキリスト者に遺した霊的生涯の道しるべ。「すべての人は、聖職位階に属している人も、あるいはそれによって牧されている人も、皆聖性へと召されている。『あなたが聖なる者となること、これが神の望みである』と使徒が言っているとおりである」（『教会憲章』39）。

本書は、十字架の聖ヨハネが16世紀に向けてなしたことを、21世紀に向けて行なおうとする、ささやかな試みです。言いかえると、その目的は、命の水を渴望する人たちへ、観想的な祈りを教えることです。筆者は、主にキリスト信者を念頭に置いて筆を進めますが、真理の探究において私どもと心を一つにし

## 第一部 キリスト教の伝統

- 第1章 福音書(1)
- 第2章 福音書(2)
- 第3章 理性対神秘主義
- 第4章 神秘主義と愛
- 第5章 東方のキリスト教
- 第6章 愛を通して生まれる英知

## 第二部 対話

- 第7章 科学と神秘神学
- 第8章 修徳主義とアジア
- 第9章 神秘主義と根源的なエネルギヤ
- 第10章 英知と(空)

## 第三部 現代の神秘的な旅

- 第11章 信仰の旅
- 第12章 浄化の道
- 第13章 暗夜
- 第14章 (愛のうちにある)
- 第15章 花嫁と花婿
- 第16章 一 致
- 第17章 英知
- 第18章 活動
- 第19章 社会活動の神秘主義

ウィリアム・ジョンストン William Johnston S.J. (1925-2010)

北アイルランドのベルファストに生まれる。

イエズス会に入会し、26歳で来日。

32歳で司祭に叙階され、以後、英語、英文学、宗教学を上智大学などで講じるかたわら、東西の宗教思想、特に神秘主義の研究と普及に尽力。パドロー・アルベ、トマス・マートン、ダライ・ラマ、永井隆、遠藤周作との出会いを通して、次々と著作を発表。現代に則した霊性探求の先駆者として、世界に広く知られている。85歳で帰天。





福者マリー=ユジェーヌ神父に導かれて  
十字架の聖ヨハネの  
**ひかりの道をゆく**

伊従 信子 編・訳

ISBN978-4-88216-372-5 C0195

定価**540**円(税込)

【聖母文庫】**287**

**第2版  
好評発売中!**



マリー = ユジェーヌ神父が十字架の聖ヨハネ  
を生き、体験し、確認した教えなのです。  
ですから、十六世紀の十字架の聖ヨハネの  
教えは現代の人々にも十分適応されます。  
また、神の命を伝え、実践的手段を示して  
聖性の最も高い段階へと導こうとする彼の  
配慮が伝わってきます。(「はじめに」より)

神と親しく生きる  
**いのりの道**

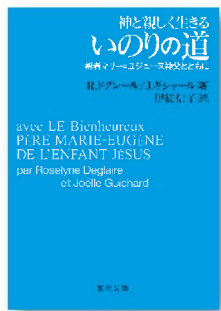
福者マリー=ユジェーヌ神父とともに

**R. ドブレール / J. ギシャル 著**

伊従 信子 訳

ISBN978-4-88216-307-7 C0195 【聖母文庫】**246**

定価**540**円(税込) 209頁



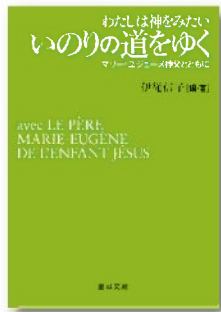
わたしは神をみたい  
**いのりの道をゆく**

マリー=ユジェーヌ神父とともに

伊従 信子 編・著

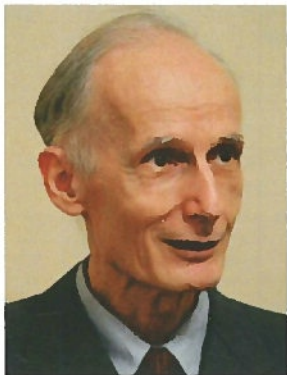
ISBN978-4-88216-339-8 C0195 【聖母文庫】**268**

定価**648**円(税込) 281頁



ご注文・お問い合わせ先

**聖母の騎士社** ☎850-0012 長崎市本河内2-2-1  
TEL.095-824-2080 FAX.095-823-5340



## クラウス・リーゼンフーバー小著作集

(全五巻) 四六版・434頁～628頁

各巻 本体 3,800～5,000 円+税

著者は日本における中世哲学研究を牽引し、広汎にわたるキリスト教思想史の著述や編集・出版を手がけてきた。宗教家としても、キリスト教信者のみならず信仰に初めて出会う一般社会人と広く向き合い、講座や黙想会などを開いてキリスト教の精神と実践、信仰における超越との関わりを伝えている。人間の自己理解から出発し、聖書と哲学的な理解とを構築して、キリスト教信仰と霊性を現代人にとって生き生きとした形で展開している。講義、執筆活動をとおして西洋古代・中世さらに現代哲学思想をわかりやすく説く。この著作集は40余年の著述活動による150余の小論考からなっており、霊的な信仰理解と人間の経験とを結びつけて互いに支え合うものとして示そうとするものである。

人生の意義の解明と存在への問い。人生をめぐる哲学的・思想史的・人間論的な諸観点のもとで、聖書に基づいて第一根源である神を中心に展開する。

		ISBN
第1巻	<b>I 超越体験 一宗教論</b> 宗教の人間論的基礎付けを「意義への問い」という観点から考察した宗教哲学論文集。宗教的理解と経験がキリスト教的精神に基づいて絡み合い、人間の心を考察して全体の根源的な起源へ向ける。全11作、434p	定価(本体+税) 9784862852151 3,800 円+税
第2巻	<b>II 真理と神秘 一聖書の黙想</b> 日常生活を貫いて人間とかわる絶対的神秘を、聖書を紐解きつつ多面的な観点から浮き彫りにする。超越との関係を求める人に向けて、宗教的経験を解明する。全35作、544p	978-4862852175 4,600 円+税
第3巻	<b>III 信仰と幸い 一キリスト教の本質</b> 主の祈り、信条の命題に沿って信仰の全体像を解説。「山上の説教」をとおして人生における艱難辛苦にも焦点を合わせる。十字を切ることの意味など、聖霊の神学と霊性から信仰生活の深みを照らす。全38作、628p	9784862852205 5,000 円+税
第4巻	<b>IV 思惟の歴史 一哲学・神学的小論</b> 古代から中世のキリスト教思想史の考察の上に立脚し、現代における信仰をめぐる根本的な問いを洞察する。人間と神理解の可能性を新たに広げて信仰生活の深みに掘下げる。全41作、448p	9784862852212 4,000 円+税
第5巻	<b>V 自己の解明 一根源への問いと坐禅による実践</b> 信仰との関わり方の薄い現代人に向け、自己への問いから発した人生の意義と超越への方向付けを見出す実践的な道筋を示唆する。「今」を中心とする存在論・時間論を展開した最終講義「時間です!」収録。全35作、470p	9784862852229 4,200 円+税

### ●リーゼンフーバー、クラウス [Riesenhuber, Klaus]

1938年ドイツ生まれ。1958年イエズス会入会。1967年ミュンヘン大学哲学博士。同年来日。1969年上智大学文学部哲学科専任講師。1971年東京で司祭叙階。1974年上智大学中世思想研究所所長(～2004)。1981年上智大学教授。1989年上智大学神学博士。国公立大学で客員・非常勤講師。放送大学客員教授。2009年上智大学名誉教授。現在は哲学的人間論および宗教哲学などの講座を開講。

知 泉 書 館

〒113-0033 東京都文京区本郷 1-13-2 TEL: 03-3814-6161 FAX: 03-3814-6166

<http://www.chisen.co.jp>





## 朝日カルチャーセンターの 通信深読「聖書に親しむ」へのご案内

「通信深読」は、「聖書深読黙想会」にさまざまな理由で参加できない方々のために考案されました。参加を希望される方は、下記の朝日カルチャーセンター通信講座課へお申し込みください。手続きがすめば、次のような手順でこの「通信深読」が行われてゆきます。

### ファースト・ステップ

「個人素読」：毎月、朝日カルチャーセンターから指定された聖書深読箇所を、ひとりで繰り返し読み、み言葉を自由に黙想します。

### セカンド・ステップ

「個人素読」の報告書作成：送られてきた用紙（B5用紙）に、深読箇所特に印象に残った節を二三ヶ所選び、番号と○や△や×などの記号を記し、「全」には、全体の印象を表す、ご自分の体験と結びついた具体的な名詞を、「照」にはみ言葉を実践する決意を示す動詞を書き込みます。さらに「所感」や「近況報告・質問」の欄に、ご自由に自分の考えや質問等を記入します。

### サード・ステップ

（参加者から朝日カルチャーセンターへ送られた「個人素読」の報告書は、参加者全員のものまとめられ、講師へ送られます。）

講師が各参加者の「個人素読」の報告書に対しコメントし、深読箇所の「解説」（A4 2枚）と共に、朝日カルチャーセンターへ送り返します。

### フォース・ステップ

コメントされた全員の「個人素読」の報告書（「近況報告・質問」はプライベートなこともあるので、削除されます）と「総合素読表」、そして講師の「解説」が冊子となり、各参加者に、センターから送られます。

\* 費用：6ヶ月（20,360円）。納入は4月、7月、10月、1月。継続の場合19,130円。

\* 講師：九里彰師（奇数月）、今泉健師（偶数月）

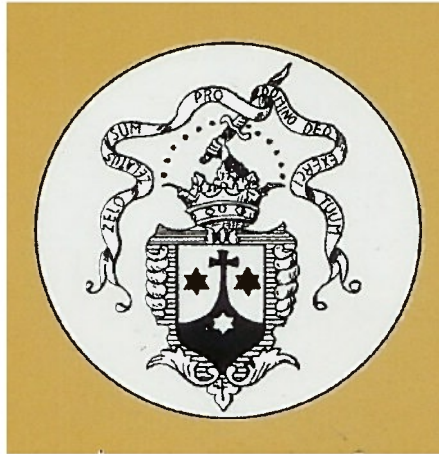
\* 問い合わせ：〒163-0278 東京都新宿区西新宿2-6-1 新宿住友ビル

私書箱21号 朝日カルチャーセンター通信講座課

Tel: 03-3344-2527（直通）



# カルメル会の企画案内



カルメル会の標語

**Zelo zelatus sum pro Domino Deo exercituum**

私は万軍の神、主に情熱を傾けて仕えてきました（列王記上 19 : 10）



## 東京 上野毛 霊性センター

黙想企画 \*\*上野毛 聖テレジア修道院 (黙想) \*\*

祭日のミサに参加するために

チェックイン午後3時以降可、チェックアウト午前10時

【クリスマス】

12月24日(木)～25日(金) 朝食《講話なし、夕食なし》

聖書深読黙想会 (土曜日18時～日曜日16時) カルメル会士

7月 4日(土)～ 5日(日)

10月31日(土)～11月1日(日)

2021年 2月27日(土)～28日(日)

一日黙想会：(水曜日10時～16時・昼食付) カルメル会士

《 カルメル会聖人に学ぶ黙想会 》

7月22日(水)

9月16日(水) 10月21日(水)

11月18日(水) 12月16日(水)

2021年 1月20日(水) 2月17日(水) 3月17日(水)

一泊黙想会 (土曜日16時～日曜日16時)

7月11日(土)～12日(日) 今泉健神父

10月24日(土)～25日(日) 今泉健神父

2021年

1月23日(土)～24日(日) 今泉健神父

3月13日(土)～14日(日) 今泉健神父

奉献生活者のための黙想会 (初日17時～最終日朝食) カルメル会士

8月 1日(土)～8月10日(月)

8月16日(日)～8月25日(火)

12月27日(日)～1月 5日(火)

青年黙想会(男女) 35歳位まで(初日16時～翌日16時) カルメル会士  
2021年 3月26日(金)～28日(日)

召命黙想会(男女) 40歳まで(初日16時～最終日16時) カルメル会士  
11月 6日(金)～ 8日(日)

特別黙想会(初日20時～最終日16時) Sr. 伊従信子(ノートルダム・ド・ヴィ)  
11月13日(金)～15日(日)



- \* 日程、指導司祭は変更される可能性もあります。お申込みの際には、ホームページ (<http://www.carmel-monastery.jp>) なども合わせてご覧下さい。
- \* こちらに掲載されている以外の日時にもご利用可能です(グループ、個人いずれも)。お気軽にお問い合わせください。
- \* 間違いを避けるため、お問い合わせはFAX・はがき・Eメール等、文書でお送り頂きますと幸いです。

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25

聖テレジア修道院(黙想)

Tel:03-5706-7355 Fax:03-3704-1789

Eメール: [mokusou@carmel-monastery.jp](mailto:mokusou@carmel-monastery.jp)

ホームページ: <http://www.carmel-monastery.jp>



## 宇治カルメル会 黙想会案内

2020年4月～8月頃まで黙想の家の改修工事を行う予定でしたが、コロナ禍の為、未だに工事が始まっておりません。今年冬頃の黙想会の再開を目指しておりますが、現在の所、未定となっております。また今後、予定や進捗状況について決まり次第、お知らせ致します。

—その他皆さまが企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします—

☆お申し込みは電話でも受け付けておりますが、できるだけFAX、はがき、Eメールでお名前と連絡先を御記入の上、お申込み下さい。お電話はなるべく午前9時～午後5時の間にお願い致します。担当が不在の場合はその場ですぐにお返事できませんので、お手数でも後日改めてお問い合わせ下さる様にお願い致します。



〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12  
宇治カルメル会 聖テレジア修道院 (黙想)  
Tel 0774-32-7016 Fax 0774-32-7457  
E-Mail: [teresiauji@mountain.ocn.ne.jp](mailto:teresiauji@mountain.ocn.ne.jp)  
<http://www.carmeluji.sakura.ne.jp/>



## 諸所の企画案内



真命山 霊性交流センター  
ノートルダム・ド・ヴィ  
サダナ瞑想  
慈しみ深き会  
ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院

※注)

諸所の企画記事は集約・編集しています。  
記載には注意を期しておりますが、  
詳細は各問い合わせにご照会下さい。  
よろしくお願い致します。

## 真命山 2020年 — 祈りの集いのご案内

### 「祈り」

最高の神秘体験として御聖体の秘跡を戴いてキリストと出会う

毎月第2木曜日（10:00～15:00）

指導者 フランコ神父

- 1月 9日 「キリストに結ばれる」：入信の秘跡の完成  
2月13日 「キリストに生かされて生きる」：永遠のいのちの糧をいただく  
3月12日 「キリストとともに死ぬ」：ほふられた小羊の生け贄に倣う  
4月 9日 「過越の神秘の体験」：復活されたキリストと出会う  
5月14日 「聖霊に生かされて歩む」：聖霊降臨の恵みの中で生きる  
6月11日 「キリストの現存の神秘」：「みことば」は私たちの間に宿られる  
7月 9日 「一致のしるし、愛のきずな」御聖体から生まれる教会  
\* \* \*
- 9月10日 「御聖体によるいろいろな奇跡」：ご聖体に対する信心の歴史  
10月 8日 「キリストの現存」：信仰のしるしである御聖櫃の美術  
11月12日 「死に勝たれた救い主の勝利」：終末論の宴  
12月10日 「私たちの間に生まれるキリスト」：御ことばは「肉」となられた



申込先

真命山 諸宗教対話センター

865-0133 熊本県玉名郡和水町蜻浦1391-7

e-mail: shinmeizan@gmail.com

前晚17:00まで可

www.shinmeizan.com

# 講話と祈りのつどい

コロナウイルス感染の広がりにより、  
予定しておりました「講話と祈りの集い」の開催を  
現在保留にしております。

状況の推移を見守りながら開催の有無を  
当会のHPに掲載いたしますので、  
そちらをご覧くださいいただければ幸いです。

担当 中山真里

\*\*\*\*\*

ノートルダム・ド・ヴィ

〒177-0044 練馬区上石神井4-32-35

TEL(03)3594-2247 FAX(03)3594-2254

e-mail notredamedevie.japan@gmail.co

## サダナ瞑想 ～東洋の瞑想とキリスト者の祈り～

詳細、補充情報はホームページをご覧ください。

<http://sadhana.jp/>

申込み受付・開始日の8日前まで

コース	日時	指導	開催場所	申込み
リピーターの会@宝塚	7/23(木)17:30- 26(日)16:00	Fr植栗	女子御受難会修道院(宝塚市)	西村 優子 TEL 090-8480-2661 野 真理子 TEL 090-6758-3369
札幌 フォローアップ	8/27(木) 9:30-17:00 8/28(金) 9:30-17:00	Fr植栗	札幌カトリックセンター(札幌市中央区)  ※宿泊も可能です。	本間 攝子 TEL 080-3260-1864 本間不在時は 山崎 有紀 TEL 090-4720-2157
札幌サダナ I	8/29(土)9:00- 31(日)17:00	Fr植栗	同上 ※通いも可能です。	同上
妙高サダナ I	9/5(土)9:00- 7(月)17:00	Fr植栗	妙高教会 赤倉山荘 (新潟県妙高市)	佐藤 範子 TEL080-3145-3646
仙台・福島 フォローアップ	9/19(土)9:00- 20(日)16:00 ※サダナ I を終えている方。	Fr マル コ・アント ニオ Fr植栗	ラ・サール会 仙台修道院 (仙台市宮城野区) ※前泊・継続宿泊・ 通いも可能です。	菅野(すがの) 由美子 TEL 090-1737-6651 peche901@yahoo.co.jp
仙台・福島 サダナ I	9/21(月)9:00- 22(日)16:00	同上	同上	同上
フォローアップ	9/27(日) 9:30-17:00	Fr植栗	ニコラバレ修道院1F (四ツ谷)	来間くるま 裕美子※ TEL 090-5325-2518 045-577-0740 sadhana12378@yahoo. co.jp

※申し込まれると確認メールが返信されます。確認メールが届かない場合は、090-5325-2518(来間)までお問い合わせください。  
※不在の場合は、渡辺由子 Tel&Fax : 042-325-7554

◆サダナ I : サダナ 1 において、呼吸や身体感覚を鋭敏に感じることと心の静まりを入り口として、深みに進みます。

◆フォローアップ…サダナ I を終えた方。



## 念祷の集い

～沈黙の内に神を求めて～

場所：イグナチオ教会岐部ホール404号室

時間：以下の木曜日

14：00～16：00(講話と念祷)

主催：慈しみ深き会



くのり

指導：九里 彰 神父（カルメル修道会）

## 年内中止のお知らせ

岐部ホールより感染防止対策の規定が出されました。

それによれば、最大20名までの利用であればOKということです。

この「念祷の集い」は、不特定多数の方が20名以上集まるため、

年内の開催は難しいということになりました。

なお、来年1月からは予約制で行ないたいと思います。

この予約受付に関しては、追ってお知らせいたします。

\*問い合わせ先：042—473—6287 篠原

※各黙想会内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。

## ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院 (2020年)

◎ 所在地： 〒520-0106 滋賀県 大津市 唐崎 1丁目 3-1  
Tel : 077-579-7580  
Fax : 077-579-3804  
E-メール : karainorind92@mbe.nifty.com

◎ 交通： JR 京都駅から湖西線で三つ目「唐崎」下車。  
琵琶湖の方へ徒歩 約 13分

◎ 黙 想

### A. 8日間の個人指導による黙想

初日は、18時の夕食で始まり、最終日は昼食で終わります。

- ① 5月10日(日)～ 5月18日(月)
- ② 8月14日(金)～ 8月22日(土)
- ③ 10月 4日(日)～ 10月12日(月)
- ④ 12月27日(日)～2021年1月4日(月)

### B. 祈りの体験：週末3日間 (金曜日の夕食～日曜日の昼食)

【神との親しさの中で日常を生きるために】

- ① 2月 7日(金)～ 2月9日(日)
- ② 2月28日(金)～ 3月1日(日)
- ③ 3月27日(金)～ 3月29日(日)
- ④ 6月12日(金)～ 6月14日(日)
- ⑤ 7月17日(金)～ 7月19日(日)
- ⑥ 9月18日(金)～ 9月20日(日)
- ⑦ 11月13日(金)～11月15日(日)

C. 講話 黙想（奉獻生活者のため）

6月22日（月）夕食 ～ 6月30日（火）昼食  
九里 彰 師（カルメル会）

- ◎ 対 象： 信徒、修道者、司祭、洗礼を受けていない方、どなたでも参加できます。
- ◎ 靈的同伴者： 司祭、ノートルダム教育修道女会会員、その他
- ◎ 申込み： 1) 氏名(カガカ) 2) 〒住所 3) 電話番号 4) 希望日程(番号)を書いて郵送、または、Faxで「黙想係」Sr.松本佳子へ申し込んでください。

唐崎修道院への案内地図の必要な方は、その旨を書き添えて下さい。

8日間の黙想は 先着順 11名、週末3日間の黙想は先着2名 です。

いずれの場合も、10日前までに申し込んでください。

D. 独身女子青年の集い

7月25日（土）～ 26日（日）

9月12日（土）～13日（日）

11月7日（土）～ 8日（日）

申込み：唐崎修道院 Sr. 桂川美代（Tel. 077-579-2884）

- E. その他： 司祭同伴の黙想会やグループ研修会のために修道院をご利用なさりたい方はご相談ください。

（但し、上記の日程と8月1日～8月9日、9月1日～9月7日を除きます。）

# 『靈性センターニュース』

## \* 郵送お申込みのご案内 \*

ご郵送は、基本的に1月から12月までとなります。  
途中からお申し込みの場合は、お申し込みの翌月から12月までとなります。  
例：6月申込の場合は、7月号～12月号（但し8月号は休刊）となり、  
5冊となります。ご希望の月数×250円程度の献金を下記口座  
へお振込み頂ければ、幸いです。

郵便番号口座： 00910-6-333184  
加入者名： カルメル靈性センターニュース事務局

なお、振替用紙の通信欄には、「郵送申込」（何月から何月まで）、また氏名、  
郵便番号・住所、電話、Fax等ご明記ください。

また、郵送お申込とは別に、ご献金もお願いしております。

その場合は、「献金」とご記入お願い致します。

何かご質問等があれば、事務局の方にご連絡ください。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12  
カルメル会宇治修道院 「靈性センターニュース事務局」  
Tel:0774-32-7456  
Fax:0774-32-7457

[reisei@carmel-monastery.jp](mailto:reisei@carmel-monastery.jp)

男子跣足カルメル修道会のホームページ

<http://www.carmel-monastery.jp>

Google:「カルメル会」で検索できます



男子跣足カルメル修道会  
Order of Discalced Carmelites

靈性センターニュース掲載の情報も載っています



## あとがき

Covid19 コロナ禍が、人類の問題のすべてであるかのように対応を迫られている日々、私たちは地球温暖化への対応という、さらに深刻な地球規模の課題を抱えています。

気候変動は、もはや、疑いようのないことです。このまま手をこまねき続けるなら、子どもたちの未来は過酷なものにならざるを得ません。どれも、わたしたちの生活スタイルがもたらした災いです。

フランシスコ教皇は、パリ協定（COP21）の半年前に、回勅『ラウダート・シ』をもって「ともに暮らす家を大切に」と世界中の善意の人々に呼びかけました。その発表5周年を迎えて、先々月パンデミックの中、この1年間で“『ラウダート・シ』についての考察を深め、地球と貧しい人々の叫びへの関心を喚起するための”「特別年」を告げられました。同回勅の中で、「わたしたちは後続する世界の人々に、今成長しつつある子どもたちに、どのような世界を残そうとするのでしょうか」（160）と訴えています。

しかし、今、その子どもたちが声を上げています。一昨年、地球の現状を憂える17歳の少女、グレタ・トゥーンベリさんが、たった一人で声を上げ、毎金曜日〈気候のための学校ストライキ〉決行し始めました。この訴えは、瞬く間に世界中の若者たちの間に伝わり、危機的な気候変動回避のために行動してほしいと大人たちに訴える運動として、さらに広がりつづけています。教皇は、グレタさんを祝福し、この運動を「このまま続けなさい。続けるのです！」と励ましています。

グレタさんの、地球の窮状についてのメッセージは、率直で単純です。「緊急の時のように行動してほしい。わたしたちの家が燃えている時のように行動してほしい。だって、実際そうなのだから」（2019年1月ダボス会議において）。

また、昨年9月、国連気候サミットで、世界のリーダーたちに向かって声を詰まらせ、涙をこらえながら、訴えました。「人々は苦しんでいます。人々は死にかけています。生態系はすべて、くずれつつあります。大量絶滅が始まろうとしているのに、お金のことや、経済がいつまでも成長し続けるというおとぎ話だけ。よくまあ、そんなことができますね！」。

彼女の訴えは、みんなの家を思い、すべての人が家族として幸せに生きることを願う天の父の心を知る、幼子の叫びのように響いてきます。

環境の問題は、人の心の在り方が生み出すものです。それは、私たちが、神と隣人と大地との交わりを生きる、まさに霊性の問題です。今、コロナ禍に入って、化石燃料の使用は激減し、持続可能な発展（SDGs）を模索するチャンスにもなりうる時を迎えています。自分自身と地球上での生活の見直しが迫られています。

(fr. 中川博道)



\*\*\*\*\* 8月休刊のお知らせ \*\*\*\*\*

「霊性センターニュース」は、8月（号）休刊となります。

9月号は、8月下旬発送予定です。ご了承下さい。

